

◎指示があるまで開かないこと。

(令和4年2月6日 13時35分～15時10分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題にはaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/>

答案用紙②の場合、

101	101
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/>

- 1 血痰の原因を検索するうえで優先度が低いのはどれか。
- a 喀痰細胞診
 - b 内服薬の確認
 - c 呼吸機能検査
 - d 喀痰抗酸菌検査
 - e 胸部エックス線写真
- 2 医師の行動として適切なのはどれか。
- a 診断のため本人の同意なく患者の家系を調べた。
 - b 診療の内容を患者の実名を含めて SNS に投稿した。
 - c 検体の血液が余ったので本人の同意なく遺伝子配列を解析した。
 - d 学習のため本人の同意なく患者の皮膚所見をホームページに載せた。
 - e 虐待が疑われるため家族の同意なく児童の情報を児童相談所に通報した。
- 3 径 2 cm のリンパ節で癌の転移よりも炎症性の腫大を疑うのはどれか。
- a 硬い。
 - b 圧痛を伴う。
 - c 可動性が乏しい。
 - d 鎖骨上窩にある。
 - e 辺縁が不整である。

4 浮腫をきたした場合、片側に出現するのはどれか。

- a 肝硬変
- b 急性心不全
- c ネフローゼ症候群
- d 蜂巣炎(蜂窩織炎)
- e 甲状腺機能低下症

5 外来を受診する全身性エリテマトーデス患者を対象に、診療内容と生活の質〈QOL〉の関係を明らかにするための研究を行いたい。患者が外来を受診する際、5分程度で回答できる無記名アンケートの実施を考えている。採血など侵襲のある行為は伴わない。

誤っているのはどれか。

- a 個人情報の保護に注意を払う。
- b ヘルシンキ宣言に則って行う。
- c 患者の診療に関与しない看護師がアンケートを回収する。
- d 所属長の了承を得れば、倫理審査委員会への申請は不要である。
- e 患者が協力を拒否しても不利益を被ることがないように配慮する。

6 腹部診察所見と疾患の組合せで正しいのはどれか。

- a 筋性防御 ————— 急性膀胱炎
- b Murphy 徴候 ————— 急性胆嚢炎
- c 下腹部腫瘍 ————— 尿管結石
- d 腹壁静脈怒張 ————— 腹部大動脈瘤
- e 鼠径リンパ節腫大 ————— 停留精巣

7 正常の胎児循環において最も酸素分圧の高い血液が流れている部位はどれか。

- a 臍静脈
- b 肺静脈
- c 動脈管
- d 上大静脈
- e 内腸骨動脈

8 ショックの原因と治療薬の組合せで正しいのはどれか。

- a 敗血症 ————— ノルアドレナリン
- b 大量出血 ————— ヘパリン
- c 徐脈性不整脈 ————— グルコース
- d 肺血栓塞栓症 ————— アミノフィリン
- e アナフィラキシー ————— リドカイン

9 地域医療構想で用いられる病床機能区分に含まれないのはどれか。

- a 高度急性期
- b 急性期
- c 亜急性期
- d 回復期
- e 慢性期

10 妊娠高血圧症候群の病型分類に含まれないのはどれか。

- a 妊娠高血圧
- b 妊娠蛋白尿
- c 高血圧合併妊娠
- d 妊娠高血圧腎症
- e 加重型妊娠高血圧腎症

11 周術期の肺塞栓症に対する予防法として正しいのはどれか。

- a 絶飲食
- b 長期臥床
- c 酸素投与
- d 尿道カテーテル留置
- e 弾性ストッキング着用

12 正面および側面の頸部写真(別冊No. 1)を別に示す。

緊急気道確保時に穿刺あるいは切開するのに最も適した部位はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 1

13 腎盂腎炎の診断に最も有用なのはどれか。

- a Grey-Turner 徴候
- b Rovsing 徴候
- c Rosenstein 徴候
- d 反跳痛
- e 肋骨脊柱角の叩打痛

14 ある疾患に対する感度 84 %、特異度 96 % の検査の陽性尤度比はどれか。

- a 8
- b 16
- c 21
- d 32
- e 40

15 疾患と聴診所見の組合せで正しいのはどれか。

- a COPD ————— stridor
- b 胸膜炎 ————— rhonchi
- c 石綿肺 ————— fine crackles
- d 肺水腫 ————— Hamman's crunch
- e 気管支喘息 ————— friction rub

- 16 患者満足度を調査対象項目とするのはどれか。
- a 患者調査
 - b 受療行動調査
 - c 病院機能評価
 - d 医療事故調査制度
 - e 産科医療補償制度
- 17 小児で痙性麻痺を生じる疾患はどれか。
- a 脳性麻痺
 - b ボツリヌス症
 - c 脊髄性筋萎縮症
 - d Prader-Willi 症候群
 - e Guillain-Barré 症候群
- 18 成人へのワクチンの筋肉注射について適切なのはどれか。
- a 注射針は 18 G を使用する。
 - b 接種後は接種部位をよく揉む。
 - c 血液逆流を確認後に薬液を注入する。
 - d 注射針は皮膚に対し直角に刺入する。
 - e 接種後は 5 分間観察して帰宅を許可する。

- 19 静脈採血の合併症として最も起こる可能性が低いのはどれか。
- a 消毒薬に対するアレルギー反応
 - b 血管迷走神経反射
 - c 横紋筋融解症
 - d 神経損傷
 - e 皮下血腫
- 20 労働安全衛生法に規定される健康の保持増進のための措置について誤りはどれか。
- a うつ病や自殺の予防が目的に含まれる。
 - b 適用となるのは常時 50 人以上の事業場である。
 - c 脳血管・心臓疾患のリスク管理として重要である。
 - d 時間外労働が月 80 時間超の労働者は希望により面接指導が受けられる。
 - e 事業者は過重労働者に対し医師による面接指導の実施が義務づけられている。
- 21 一過性の意識障害が生じた場合、Adams-Stokes 症候群を疑う病歴はどれか。
- a 排尿後に意識消失した。
 - b 突然、意識を失い倒れこんだ。
 - c 意識が回復した後、上下肢の麻痺を認めた。
 - d 舌を噛んでいて口腔内からの出血を認めた。
 - e 意識が回復した後、意識がもうろうとしていた。

22 手根管症候群の診断に有用なのはどれか。

- a 脳波検査
- b 針筋電図検査
- c 脳脊髄液検査
- d 末梢神経伝導検査
- e 反復誘発筋電図検査

23 医療面接について誤っているのはどれか。

- a 非言語的コミュニケーションは医療情報の収集に必要である。
- b 感情面に対応した応答は信頼関係の構築のために必要である。
- c システムレビューを行うと家族歴についての情報が充実する。
- d 解釈モデルを把握して対応することによって患者満足度は高まる。
- e 患者教育が十分に行われると治療へのコンプライアンスが高まる。

24 尿閉の原疾患として正しいのはどれか。

- a 尿道下裂
- b 前立腺肥大
- c 膀胱尿管逆流
- d 間質性膀胱炎
- e クラミジア性尿道炎

25 アナフィラキシーの患者に対する病歴聴取で最も**必要性が低い**のはどれか。

- a アトピー性皮膚炎の合併
- b 直近の食事の内容
- c 蜂に刺されたこと
- d 食後の運動
- e 内服薬

26 76歳の男性。失神を主訴に来院した。2年前に持続性心房細動と診断され、抗凝固薬が開始されている。その他の投薬はされていない。最近1か月の間に2度失神して、顔面を強打するというエピソードがあった。Holter心電図を施行したところ、最大心拍数112/分であり、ふらつきを伴う最大6.4秒のR-R間隔を認めた。

適切な方針はどれか。

- a β 遮断薬投与
- b Holter心電図の再検
- c イソプロテレノール投与
- d 心臓ペースメーカー植込み
- e 植込み型除細動器(ICD)植込み

27 60歳の男性。動悸と眼前暗黒感を主訴に来院した。体温36.0℃。脈拍32/分、不整。血圧82/50 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂98%(room air)。

病態と関連する可能性が最も高い検査所見はどれか。

- a Na 130 mEq/L
- b K 7.0 mEq/L
- c Cl 92 mEq/L
- d Ca 8.0 mg/dL
- e P 5.0 mg/dL

28 70歳の男性。咳嗽と嘔吐を主訴に来院した。5日前から発熱と咳嗽を認めていたが、昨日から食事が摂れなくなり胃液を嘔吐している。今朝から反応が乏しくなった。2年前から脳梗塞による左片麻痺がある。意識レベルはJCSⅡ-10。体温38.2℃。脈拍108/分、整。血圧72/42 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 94% (room air)。四肢は温かい。心音に異常を認めない。右胸部に coarse crackles を聴取する。上腹部はやや膨隆している。微生物検査用に血液と喀痰を採取し、末梢静脈から輸液を開始した。

次に行う対応として適切なのはどれか。

- a 輸血
- b 気管挿管
- c 経鼻胃管挿入
- d ヘパリン投与
- e プロプラノロール投与

29 50歳の女性。腹痛と嘔吐を主訴に来院した。前夜焼肉を食べ5時間ほどしてから腹痛が出現し、2度嘔吐したため受診した。意識は清明。身長162cm、体重58kg。体温37.8℃。脈拍96/分、整。血圧164/92mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜に異常を認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦だが、右上腹部を圧迫したまま深吸気をさせると痛みのために呼吸が止まってしまう。血液所見：赤血球490万、Hb15.9g/dL、Ht45%、白血球14,500、血小板19万。血液生化学所見：総蛋白6.6g/dL、アルブミン3.9g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、AST32U/L、ALT46U/L、LD143U/L(基準120~245)、ALP112U/L(基準38~113)、 γ -GT128U/L(基準8~50)、アミラーゼ54U/L(基準37~160)、尿素窒素13.5mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、血糖166mg/dL、Na137mEq/L、K3.6mEq/L、Cl103mEq/L。CRP1.4mg/dL。来院時の腹部造影CT(別冊No. 2)を別に示す。

診断はどれか。

- a 急性胆管炎
- b 急性胆嚢炎
- c 胆嚢腺筋症
- d 胆嚢捻転症
- e 慢性胆嚢炎

別冊

No. 2

30 3歳の女児。全身けいれんが持続するため救急車で搬入された。昨晚から38℃台の発熱が持続している。食事の摂取は少ないが水分の摂取はできている。嘔吐や下痢はない。今朝、全身けいれんがはじまり約15分間持続しているため母親が救急車を要請した。来院時も全身けいれんが持続しており、チアノーゼを認める。

この児に行くべき処置として優先度が低いのはどれか。

- a 酸素投与
- b 気道確保
- c 静脈路確保
- d 抗けいれん薬投与
- e 尿道カテーテル挿入

31 75歳の男性。一人暮らし。3か月前に肺癌と診断され、肺内転移、骨転移を認めた。家で穏やかに過ごしたいという本人の希望で在宅療養している。自宅で最期を迎えることを希望している。2週間前からはほぼ寝たきりでトイレに行くこともできず、訪問看護サービスとホームヘルパーの訪問を受けている。5日前から腰痛が出現し、訪問診療の医師が薬物療法を行ったが腰痛が悪化している。本日、医師が診療に訪れた際に患者が「もう今日で死なせてください」と強く訴えた。

本日の訴えに対する医師の対応として正しいのはどれか。

- a 「そんなことを言わずに頑張りましょう」
- b 「今すぐ安らかに旅立つお手伝いをします」
- c 「すぐにホスピスへの入院を検討しましょう」
- d 「末期肺癌の根治的治療法がありますので安心してください」
- e 「なぜそのようなお気持ちになったのか、お話し下さいますか」

32 72歳の女性。右眼痛を主訴に来院した。昨夜、右眼の痛みとともに頭痛と悪心
が出現し、次第に増悪している。右眼に高度の毛様充血、角膜浮腫があり、瞳孔が
散大、中等度の白内障を認める。

診断に有用な検査はどれか。

- a 網膜電図
- b 眼圧検査
- c 頭部CT検査
- d 眼部超音波検査
- e 光干渉断層計(OCT)

33 58歳の男性。頭痛と意識障害のため救急車で搬入された。3日前から38℃台の
発熱、咳嗽、喀痰の増加を自覚していた。昨晚から強い頭痛を訴えており、今朝に
なり反応も鈍くなってきたため、家族が救急車を要請した。意識レベルはJCS
II-30。体温39.8℃。心拍数128/分、整。血圧116/58 mmHg。呼吸数28/分。
SpO₂ 98% (マスク5 L/分 酸素投与下)。項部硬直とKernig徴候を認める。①対
光反射に左右差を認める。②胸骨左縁に収縮期雑音を認める。③左下胸部に
coarse cracklesを認める。④腸蠕動音は減弱している。⑤両側下腿に浮腫を認め
る。

腰椎穿刺の回避を考えるべき所見はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

34 82歳の男性。心不全の急性増悪で入院していたが、病状が安定してきたので退院を見据えて療養環境を調整することになった。高血圧症、陳旧性心筋梗塞の既往があり、多発ラクナ脳梗塞後遺症で巧緻機能障害を認める。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは16点(30点満点)である。独居で血縁者はいない。

この患者への対応で適切でないのはどれか。

- a 訪問看護を計画する。
- b 介護保険の申請を勧める。
- c 服薬管理を本人に任せる。
- d 成年後見制度の適応を検討する。
- e 多職種間で患者情報を共有する。

35 55歳の男性。上腹部痛を主訴に来院した。半年前から腫瘍に気付き、徐々に大きくなっていることを自覚している。眼瞼結膜に貧血があり、左鎖骨上リンパ節の腫大を認める。上腹部に径10cmの腫瘍を触知し、圧痛を認める。患者は「おなかになにかがあるのは分かっていたが、癌と診断されるのが怖く今まで受診しなかった。飲食店を自営しているが、私がいないと休業となり、収入が無くなり困る。もっと早く受診すれば、私は死なずにすんだのでしょうか」という。

この患者が感じている苦痛のうち社会的苦痛はどれか。

- a 死への恐怖
- b 上腹部の痛み
- c 収入が無くなる事への不安
- d 癌と診断される事への恐怖
- e もっと早く受診すればという後悔

36 80歳の男性。睡眠障害を主訴に来院した。数年前から不眠、中途覚醒がみられている。既往歴、家族歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。飲酒は晩酌をたしなむ程度である。コーヒーを3杯/日飲む。睡眠薬はこれまでも時折服用していたが効果が不十分と感じ、睡眠薬の追加処方を希望して受診した。

行うべき指導はどれか。

- a 就寝前の飲酒
- b 睡眠薬の増量
- c 起床時の日光浴
- d 1時間以上の昼寝
- e 夕食時のコーヒー摂取

37 7歳の女兒。友人の家でエビを摂取した後に急に嘔吐し、意識がもうろうとなったため救急車で搬入された。過去にカニを食べて蕁麻疹が出たことがあった。意識レベルはGCSスコアでE3V3M4。体温36.2℃。心拍数124/分、整。血圧78/52 mmHg。呼吸数30/分。SpO₂98%(マスク3L/分 酸素投与下)。全身は蒼白で膨疹が散在している。両側の胸部で喘鳴を聴取する。

直ちに行うべき治療はどれか。

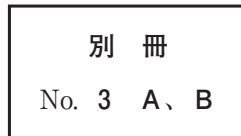
- a β刺激薬吸入
- b アトロピン静注
- c アドレナリン筋注
- d 抗ヒスタミン薬静注
- e プレドニゾロン静注

38 A 21-year-old previously healthy man presented to the emergency room with chest pain, which was worse on breathing, lasting for two days.

Lung and heart examinations were unremarkable. Chest X-ray (別冊No. 3A) and ECG (別冊No. 3B) are shown in the figure.

What is the most likely diagnosis?

- a Herpes zoster
- b Myocardial infarction
- c Pericarditis
- d Pneumothorax
- e Pulmonary embolism



39 21歳の男性。左頬部の痛みを主訴に来院した。1週間前から咽頭痛、鼻汁があり3日で改善した。昨日から左頬部の痛みと圧迫感、浮腫が出現し、増悪してきたため来院した。既往歴に特記すべきことはない。体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧106/76 mmHg。呼吸数14/分。鼻鏡検査で左中鼻道に膿性鼻汁を認める。顔面の写真(別冊No. 4)を別に示す。

この時点でみられる可能性が最も低いのはどれか。

- a 歯 痛
- b 鼻 閉
- c 上顎痛
- d 嗅覚低下
- e 視力低下



40 55歳の男性。下腿浮腫を主訴に来院した。1週間前から下腿浮腫を自覚し、徐々に増強したため受診した。20歳台からアルコールの多飲歴がある。意識は清明。頸部リンパ節を触知しない。前胸部にくも状血管腫を認める。

打診で shifting dullness を確認する際、仰臥位の次にとらせる体位はどれか。

- a 座位
- b 立位
- c 碎石位
- d 側臥位
- e 腹臥位

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

83歳の男性。呼吸困難を主訴に救急外来を受診した。

現病歴 : 6年前から呼吸器疾患で入退院を繰り返しており、訪問診療と訪問看護を受けている。在宅酸素療法を受けている。昨日夜から呼吸困難が増悪し、様子を見たが改善しないため近所の人に連れられて来院した。

既往歴 : 26歳時に虫垂炎手術を受けている。

生活歴 : 一人暮らし。妻は3年前に死亡。二人の子供はいずれも県外在住。喫煙は20歳から20本/日を58年間。5年前に禁煙。

家族歴 : 父が80歳時に脳出血で死亡。

現症 : 来院時、意識レベルはJCS I-1。呼吸困難のために会話が困難である。身長160 cm、体重48 kg。体温36.4℃。脈拍100/分、整。血圧124/72 mmHg。呼吸数22/分。SpO₂ 88% (携帯用の酸素ボンベで鼻カニューラ1 L/分)。じっとりと汗をかいている。呼吸音は減弱しており、呼気時に喘鳴を聴取する。口すぼめ呼吸を認め、胸鎖乳突筋が発達している。

検査所見 : 血液所見：赤血球452万、Hb 15.3 g/dL、Ht 44%、白血球9,200。血液生化学所見：総蛋白6.4 g/dL、アルブミン2.8 g/dL、AST 36 U/L、ALT 32 U/L、LD 338 U/L (基準120~245)、尿素窒素25 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 102 mEq/L。動脈血ガス分析(鼻カニューラ1 L/分 酸素投与下)：pH 7.33、PaCO₂ 56 Torr、PaO₂ 58 Torr、HCO₃⁻ 30 mEq/L。

41 初期対応として酸素投与を開始することとした。

適切な酸素投与量はどれか。

- a 鼻カニューラ 2L/分
- b 鼻カニューラ 4L/分
- c 鼻カニューラ 6L/分
- d フェイスマスク 6L/分
- e フェイスマスク 10L/分

42 入院後適切な治療が行われ退院することとなった。

この患者の退院時療養支援への関与が低いのはどれか。

- a 在宅医
- b 訪問看護師
- c 臨床検査技師
- d ケアマネジャー
- e ソーシャルワーカー

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

23歳の男性。胸痛を主訴に来院した。

現病歴 : 朝、通勤中に突然胸痛が出現した。駅のベンチで休息すると少し改善したため歩きかけたが、呼吸困難感も出現したため救急搬送された。

既往歴 : 2か月前に労作時の息切れが急に出現し軽快したが、心配になり受診した。自宅近くの病院で胸部CTを施行された。その時の胸部単純CT(別冊No. 5 A)を別に示す。

生活歴 : 高校、大学と硬式野球部で、現在も社会人チームに所属している。仕事の都合で毎月数回は飛行機で出張している。

家族歴 : 母親が脂質異常症で内服加療中である。

現症 : 意識は清明。身長178 cm、体重65 kg。脈拍120/分、整。血圧110/80 mmHg。呼吸数28/分。SpO₂ 95%(room air)。心音に異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球480万、Hb 15.0 g/dL、Ht 45%、白血球7,800、血小板26万。血液生化学所見：AST 32 U/L、ALT 36 U/L、LD 280 U/L(基準120~245)。来院時の胸部エックス線写真(別冊No. 5 B)を別に示す。

別冊

No. 5 A、B

- 43 この患者で認められる所見はどれか。
- a ばち指
 - b チアノーゼ
 - c 呼気の延長
 - d 患側の打診上濁音
 - e 患側の呼吸音減弱
- 44 この患者に対して行うべき処置はどれか。
- a 昇圧薬投与
 - b 気管支鏡検査
 - c 胸腔ドレナージ
 - d 緊急胸腔鏡下手術
 - e 人工呼吸器による陽圧呼吸

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

68歳の男性。動悸を主訴に来院した。

現病歴 : 2日前の朝、起床時から動悸に気づいた。動悸は脈が飛ぶような感じで、胸痛、失神、息切れはない。様子を見ていたが動悸が続くため救急外来を受診した。半年前と2か月前にも同様の動悸発作があり、半日で自然に軽快した。

既往歴 : 15年前から高血圧症、糖尿病、脂質異常症で、かかりつけ医から降圧薬と血糖降下薬などを処方されている。整形外科医院から骨粗鬆症治療薬を処方されている。

アレルギー歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 20代から1日20本喫煙していたが、15年前に禁煙した。飲酒は毎日泡盛を3～5合。妻と二人暮らし。

家族歴 : 兄は脳梗塞で死亡。

現症 : 意識は清明。身長168 cm、体重69 kg。体温36.1℃。脈拍120/分、不整。血圧170/96 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂ 96 % (room air)。眼瞼結膜に貧血を認めず眼球結膜に黄染を認めない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺腫大を認めない。脈拍は不整、心雑音は聴取しない。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下肢に浮腫を認めない。神経診察で異常を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖2＋、ケトン体(－)、潜血(－)、血液所見：赤血球523万、Hb 16.9 g/dL、Ht 50 %、白血球9,900、血小板16万、PT-INR 1.0 (基準0.9～1.1)。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン3.9 g/dL、AST 26 U/L、ALT 19 U/L、LD 218 U/L (基準120～245)、ALP 71 U/L (基準38～113)、 γ -GT 132 U/L (基準8～50)、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン1.1 mg/dL、尿酸6.1 mg/dL、血糖276 mg/dL、HbA1c 7.8 % (基準4.6～6.2)、総コレステロール203 mg/dL、トリグリセリド279 mg/dL、HDLコレステロール60 mg/dL、LDLコレステロール87 mg/dL、Na 139 mEq/L、K 4.7 mEq/L、Cl 103 mEq/L、TSH 1.6 μ U/mL (基準0.2～4.0)、FT₄ 1.1 ng/dL (基準0.8～2.2)。心電図(別冊No. 6A)と胸部エックス線写真正面像(別冊No. 6B)と胸部エックス線写真側面像(別冊No. 6C)とを別に示す。

別冊

No. 6 A、B、C

- 45 経過観察したところ、自然に洞調律に戻った。心エコー図では心機能は正常で左房は軽度拡大し、弁膜症は認めなかった。心原性塞栓症のリスクを CHADS₂ スコアで評価することにした。

CHADS₂ スコア

頭文字	リスクファクター	点数
C	心不全	1
H	高血圧(治療中も含む)	1
A	年齢(75歳以上)	1
D	糖尿病	1
S ₂	脳卒中/TIA の既往	2

この患者の CHADS₂ スコアはどれか。

- a 1点
 - b 2点
 - c 3点
 - d 4点
 - e 5点
- 46 抗凝固薬について説明したところ、同席していた妻が「この人、薬はあまり飲まないんですよ」と申し出た。本人に確認すると「1か月分処方されても半分くらいの薬が余ってしまう」という。
- 服薬アドヒアランスを低下させる要因を述べた患者の言動で薬の一包化が有効なのはどれか。
- a 「朝飯は食べないことが多いから、つい飲まないんです」
 - b 「知り合いが血圧の薬を飲んで脳出血になったから怖いです」
 - c 「薬代が高いから、なるべく飲まないで長持ちさせてるんです」
 - d 「飲む薬が沢山あって、どれを飲んだか分からなくなるんです」
 - e 「年取ったら血圧は下げすぎないほうが良いって新聞で読んだんです」

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

21歳の女性。発熱と咽頭痛を主訴に来院した。

現病歴 : 2日前に咽頭痛と37℃台の発熱が出現し、昨晩は38.6℃であった。市販の解熱鎮痛薬を内服し、今朝は37.6℃に下がったが、咽頭痛は悪化している。鼻汁、咳、痰はない。嚥下時に咽頭痛は増悪するが、嚥下障害はない。同様の症状の患者との接触はない。

既往歴 : 3年前にA群β溶血性連鎖球菌(A群β溶連菌)性咽頭炎を発症。月経痛に対してアセトアミノフェンを頓用している。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。大学3年生で就職活動をしている。ペットは飼育していない。海外渡航歴はない。アレルギー歴はない。家族と同居している。最終月経は7日前から4日間で終了した。

家族歴 : 父は高血圧症。母と弟は健康。

現症 : 意識は清明。身長156 cm、体重52 kg。体温38.2℃。脈拍96/分、整。血圧108/62 mmHg。呼吸数20/分。四肢・体幹に皮疹を認めない。両側扁桃の発赤と腫大があり、表面に白苔を認める。両側の後頸部に最大径1 cmの圧痛を伴うリンパ節腫大をそれぞれ3個認める。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、右肋骨弓下に肝を3 cm、左肋骨弓下に脾を3 cm 触知する。肋骨脊柱角叩打痛は両側で認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)、沈渣に白血球を認めない。血液所見：赤血球410万、Hb 11.6 g/dL、Ht 39%、白血球17,400(好中球44%、好酸球1%、単球3%、リンパ球42%、異型リンパ球10%)、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.0 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、AST 62 U/L、ALT 94 U/L、LD 785 U/L(基準120~245)、ALP 100 U/L(基準38~113)、尿素窒素24 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL。CRP 3.5 mg/dL。

47 「発熱」「前頸部リンパ節腫大」「口蓋扁桃の白苔」「咳がない」の4項目について、該当項目数に応じたA群β溶連菌性咽頭炎の事前確率を表に示す。

該当項目数	事前確率(%)
0	2.5
1	10
2	17
3	35
4	52

A群β溶連菌迅速抗原検査は陰性であった。A群β溶連菌迅速抗原検査の陽性尤度比30、陰性尤度比0.2とすると、この患者におけるA群β溶連菌性咽頭炎の事後確率はどれか。

- a 10%
- b 25%
- c 40%
- d 50%
- e 75%

48 初診時に提出した検体の抗EBV VCA IgM抗体は陽性であった。

この患者で他者への感染源となる可能性が高いのはどれか。

- a 尿
- b 汗
- c 唾 液
- d 糞 便
- e 血 液

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

60歳の女性。背部痛と体重減少を主訴に来院した。

現病歴 : 1か月前から背部痛を自覚していた。市販の外用薬を貼ったりマッサージを受けたりしていたが改善しないため来院した。この3か月間で体重が3kg減少している。

既往歴 : 55歳時から高血圧症で降圧薬を服用している。

生活歴 : 夫と2人暮らし。

家族歴 : 父が高血圧症、母が高脂血症。

現症 : 意識は清明。身長155cm、体重45kg。体温36.2℃。脈拍96/分、整。血圧126/80mmHg。呼吸数18/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜は蒼白で、眼球結膜に黄染を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は膨満しており、波動を認める。聴診で腸雑音は減弱している。肝・脾を触知しない。両下腿に軽度の浮腫を認める。腱反射は正常である。感覚系に異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球401万、Hb10.5g/dL、Ht31%、白血球4,500、血小板29万。血液生化学所見：総蛋白5.9g/dL、アルブミン2.9g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、AST24U/L、ALT22U/L、LD363U/L(基準120~245)、ALP146U/L(基準38~113)、尿素窒素11mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、血糖93mg/dL、CEA10.6ng/mL(基準5以下)、CA19-9352U/mL(基準37以下)。腹部超音波検査および腹部CTで臍体部に径10cmの腫瘤、肝両葉に径1~2cmの多発する腫瘤陰影を認める。腹水の貯留を認める。

49 担当医が今後の治療方針を判断するために最も適切な情報はどれか。

- a 患者の体験記
- b 診療ガイドライン
- c 研究会での症例報告
- d 製薬会社のホームページ
- e 医師が発信するソーシャル・メディア

50 担当医は患者に病状を伝えるために以下のように行動した。

まず、①患者との面談の前に夫に電話で検査結果を伝えた。面談では、②今までの症状について患者の認識を確認した。次に、③患者が今回の検査結果をどこまで知りたいか確認した。その上で、なるべく平易な言葉や図を用いて腹部造影CTの結果を説明した。患者は驚き混乱している様子であったため、④患者の気持ちを察して少し間をとってから声をかけた。最後に、⑤患者の気持ちを傾聴し、共感の態度を示した。

悪い知らせの伝え方について、下線部のうち誤っているのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

